

定期巡回第3回運営推進会議 議事録

平成28年度 第3回

開催日	11月12日(土) 10:00~11:00	場所	霞ヶ関中央クリニック 1階ホール	議長	松本
出席者	池袋病院：水村 笠幡病院：渡邊・加藤 霞ヶ関南病院：藤原 霞ヶ関地区民児協：大室・溝口 地域包括支援センターかすみ：猪鼻・梅本 地域包括支援センターだいたう：高瀬 定期巡回コール：松本・西田 ※敬称略				

議事内容(記載者：西田)

○利用者状況について報告

- ・ 利用者数は13名になりました。1名元気になられて卒業という形で終了になった方がいらっしゃいます。

○新規相談

- ・ 事業所から離れた地域からの依頼で、随時訪問等が難しいケース、狭山市からの利用依頼があり、いずれもお受けできないケースでした。
- ・ 近隣からの相談依頼は最近ない状況

○リスク報告

- ・ [訪問時間の間違い]
- ・ [通所サービスへ送り出さず退室]
- ・ [内服薬の飲み間違い]

○事例を通じて取り組み状況の報告

ケース1；難病の40代男性、妻と子供2人(二人とも未就学)徐々に進行していく病気へ向き合い支援方法を変更しているケース

【サービス内容】 安否確認、体調観察、食事や水分の準備と必要時介助、整容、排せつ介助

【1週間の定期訪問予定】 月～金 1日3～5回

【問題点】 開始当初は一日2回、昼時間とおやつ時間のみであったが、進行性の難病のために日々状態変化がある。特に歩行や嚥下に低下が著名で介助方法が定まらず職員も介助に入ることに不安がでてきた。

【対応】 訪問リハビリと細かな情報交換と日々変化するケア方法へ対応すべくいくつかのパターンでの介助方法を決め統一した関りをした。

できないことが増えたことで介助が必要となり、訪問回数自体を必要に応じた変化して様子を観察し最も適した時間帯に訪問するようにした。

【結果】 本人が不安に思うことへ早めに対応ができたこと、訪問リハビリとの共同により安心した移動方法の確立と進行していく状態の応じた適応したケアができるようになった。今後も進行していくに従っての介助方法や必要時間帯の見直しを必要なタイミングで行い関わっていく。この先、どうなるかは、主治医やご家族さんと話し合いながら、どこまで在宅で続けられるかわかりませんが、自宅にいる時には支えられるように、随時対応していきます。また、ご家族からもピンポイントで関わってくれるので、とても助かるというような言葉をいただいています。

ケース2；一人暮らし、高齢になってから埼玉へ移住してきたケース

【サービス内容】 健康チェック、内服確認、通所への送り出しと迎え入れ
食事の確認、必要時準備

【1週間の定期訪問予定】 毎日 1日2回

【問題点】 一人で何でもできると頼ることが苦手な方だったが、年齢とともに徐々に物忘れや気力の低下があり不活発な状態となる

【対応】 認知症の状態把握や内服薬の管理、心臓や血圧など多くの病気を持っているため主治医との連携に看護師が必要な時期であることを提案する。

息子や本人の納得がなかなか得られず2カ月交渉し納得していただけた。

【結果】 認知症の細かな症状などを看護師の目でみて主治医との連携を図り始めたところである。内服薬の変更などが始まり現在も経過観察中だが、看護師導入により介護の職員の安心にもつながり良かったと考えている。

意見交換

- ・ 細目に行くケースと、安心感というか精神的な部分での心のケアの目的で利用するケースがある
- ・ 最近はピンポイントで関わって欲しいという依頼が増えている
- ・ 混雑時の訪問ルートはどうしているのか？
→空いてるルートをWEBで確認したり、他のスタッフからの情報を聞いたりして、時にはわざわざ遠回りすることもあります。
- ・ 訪問回数が増えていますか？
→難病の方や介護度の重い方になりますと、どうしてもピンポイントの関わりを求められることが増えてきます。ただ、回数は多くなっていますが、訪問時間は20分程度の訪問で済んでいます。
- ・ 深夜帯については、随時対応はたまにありますが、随時訪問はほぼないです。
- ・ 利用者獲得に向けて何か良い施策はないでしょうか？【事業者側からの質問】
→ケアマネ情報交換会で紹介したり、事例報告を定期的にやって経過報告していくことや、退院される方向けにサービス紹介できる（事例紹介）ようなものを用意するなどすることで、浸透していくのではないかと思います。
→事例紹介パンフレット等があると、外来待合室など色々な場面で情報提供が可能となる気がします。
- ・ サ高住にもサービスに入れるのでしょうか？
→入れますが、サ高住の運営者との協議が必要になってきます。
- ・ 定期巡回サービスの単位が大きいので、どうしても退院後のサービスとなると、リハビリをベースに考えてしまい、ケアマネさんに相談すると、選択肢から落とされてしまう傾向にあるので、ケアマネジャーさんにもっと浸透するといいなと思いました。
→回復期病棟からのケースは現状2ケースですが、今のところ介護度も含め大きなADLの低下もなく過ごされています。ケアマネジャーさんにもっと営業をかけていきたいと思っています。

○次回開催について

- ・ 2月18日（土）10：00～11：00 霞ヶ関中央クリニック 1階ホールにて